

東行庵と鞆の浦観光

右城 猛(うしろ たけし)

1. まえがき

10月17日に山口県の「海峡メッセ下関」で開催された第40階日韓技術士会議に出席した。そのついでに、高杉晋作の遺骸が葬られている東行庵と、「いろは丸」事件の損害賠償を巡って坂本龍馬が談判した「福禅寺」がある鞆の浦を観光してきた。



16日7時20分に自宅を出発。瀬戸中央自動車道から山陽自動車道に入る。いつ見ても瀬戸大橋の美しさには感動させられる。

2. 東行庵

中国自動車道の小月ICで降りて約15分走ると下関吉田にある東行庵に着いた。東行庵は、高杉晋作の菩提を弔うために、山形有朋、伊藤博文、井上馨などの寄付によって作られた庵である。晋作の号にちなんで東行庵と名付けられている。



司馬遼太郎が長州を訪れたときに表現された「長州は奇兵隊の国である」が刻まれた歌碑。



高杉晋作が亡き同志を偲んで詠んだ歌「おくれてもおくれども 又君たちに誓ひしことを あに忘れめや」が刻まれた歌碑。

歌碑の左側には、高杉晋作を敬愛していた小泉純一郎内閣総理大臣が平成18年8月4日に歩いたという「小泉ロード」などがある。



墓地の中央には高さ6mの「白衣観世音菩薩像」が建てられている。



東行庵の境内には「もみじ谷」がある。たくさんの紅葉が植えられている。



高杉晋作の墓。墓石の横の立て札に下記のように書かれている。

『高杉晋作(号東行)は、天保 10 年(1839)二百石の長州藩士の長男として萩に生まれた。18 歳にして生涯の師吉田松陰の松下村塾に入門したのを転機に、希代の革命戦略家として頭角を現す。文久 3 年(1863)長州藩が外国艦隊と砲火を交えるに及んで奇兵隊を組織自ら初代総督となる。以後、各地に討幕戦を指揮し明治維新のさきがけとなったが、慶応 3 年(1867)4 月 14 日(命日は 14 日)下関において結核のためその雷電風雨の如き 27 歳 8 ヶ月の生涯を閉じた。遺言により、ここ奇兵隊の本拠地吉田清水山に土葬される』



伊藤博文による高杉晋作顕彰碑。『動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し、衆目駭然として敢えて正視するものなし。これ、我が東行高杉君に非ずや』で始まるかの有名な碑文が刻まれている。

伊藤はこの顕彰碑の碑文を書いた(明治 42 年 9 月)翌月に、ハルピンにおいて狙撃され亡くなっている。



高杉晋作像



晋作の 100 年祭を記念して建てられた東行記念館。一時閉館されていたが、平成 22 年に下関市立東行記念館として再会館している。



奇兵隊軍監・山縣有朋の草庵で無隣庵(むりんあん)と呼ばれていたが、晋作の霊を弔うために出家した晋作の愛人うの(後に谷梅処 ばいしよ)のために寄贈された。現在の庵は明治 17 年伊藤博文・山縣有朋・井上馨(かおる)等全国諸名士の寄付により建立されたもので、昭和 41 年に大修理が行われている。



東行記念館の前にある東行池。池には、梅処尼が最も好んだとされる花菖蒲 100 種 10,000 株が植えられており、菖蒲（しょうぶ）池とも呼ばれている。

3．関門大橋と火の山公園

15 時に下関に到着した。ホテルに入るには時間が早いので、関門大橋と火の山公園を見学する。



関門海峡に架かる関門大橋。1973 年に開通。橋長 1068.0m、支間 712.0m の補剛トラス桁の吊橋で、土木学会田中賞を受賞している。



関門海峡の壇ノ浦砲台跡に復元された長州砲。



ロープウェイで火の山公園に登る。「火の山」とは、敵軍を発見したときに狼煙(のろし)を上げて本部に知らせるための高台であることを海峡ゆめタワーでボランティアガイドをしていた女性から教わった。



「火の山公園」の展望台から眺めた関門大橋。



下関駅の近くの「グリーンホテル下関」にチェックインしてから、革靴を持ってくるのを忘れたことに気がつく。下関駅前のデパート大丸で革靴を買ってから、「ふく料理」が食べられそうな居酒屋で食事をする。山口では、「ふぐ」のことを「ふく」あるいは「福」と呼んでいる。

4 . 海峡メッセ下関

17日の9時から「海峡メッセ下関」で第40回日韓技術士会議があり、午前中は式典、合同シンポジウム行われ、午後より専門分科会に別れてシンポジウムがあった。

分科会では、「環境・資源・エネルギー・国土・観光」をテーマとした第1分科に出席していたが、15時に会場を出て、「海峡ゆめタワー」に登って市内を展望することにした。



「海峡メッセ下関」は、国際貿易ビル、高さ153mの「海峡ゆめタワー」、アリーナから構成されている。「海峡ゆめタワー」の最上階の30階が展望室になっていて、瀬戸内海、関門海峡、巖流島、九州の連山そして響灘(日本海)と360度の雄大なパノラマを一望することができる。

展望室で女性から「うじょうさん」と声をかけられた。60歳代と思われるボランティアのガイドであった。首からぶら下げていた「日韓技術士会議 右城 猛」の名札を見て声を掛けてきたのであった。彼女から、高杉晋作のことについて詳しい説明を聞くことができた。



「海峡ゆめタワー」の展望室から眺めた関門大橋。



左中央の島が、宮本武蔵と佐々木語次郎の決闘で有名な巖流島。正式名称は「船島」。



20時40分に日韓技術士会議の晚餐会が終わる。「海峡ゆめタワー」はライトアップされてとても綺麗。幻想的な光は季節、曜日、時間に合わせてきめ細かく演出され、バレンタインやクリスマスなどには特別ライトアップが行なわれるようである。

5 . 鞆の浦

10月18日8時、ホテルを出発。山陽自動車道の福山東ICで降りて鞆(とも)の浦と仙酔島(せんすいじま)を観光する。



「鞆の浦」の渡船場の近くに建てられている真言宗「福禅寺」。



鞆の浦漁港。湾の向こうには鞆の浦のシンボル「常夜灯」が見える。「常夜灯」のすぐ近くに「いろは丸展示館」がある。



「いろは丸」事件で坂本龍馬が損害賠償を巡って「明光丸」の船長・高柳楠之助と談判したと言われている「福禅寺」の客殿「対潮楼」。



「鞆」の町の狭い路地は情緒が溢れている。日本画家の故・平山郁夫もこのアングルが気に入ってスケッチをされたそうである。



「対潮楼」の海側から、「まぐさ」と「窓台」と「まぐさ受け」を額縁と見なし、その中から眺めた「鞆の浦」の風景。

1711年に朝鮮から通信使で来た李邦彦が、「対潮楼」から眺めた鞆の浦の景色が朝鮮より東の世界で一番風光明媚と賞賛し、「日東第一形勝」と書き残している。



「保命酒」を販売している店。鞆の浦には保命酒を醸造・製造している酒蔵が4軒ある。



いろは丸展示館。鞆の浦沖で沈んだ「いろは丸」の引き揚げ物などの関連資料を沈没状況のジオラマとともに展示、紹介されている。



太田家住宅。元は福山藩の御用名酒屋を務めた保命酒の蔵元「中村家」の屋敷。明治時代に太田家の所有となった。瀬戸内海の近世商家建築を代表するもので、国の重要文化財に指定されている。



いろは丸展示館の2Fには、坂本龍馬の隠れ部屋が再現されている。

6．仙酔島

「仙人も酔ってしまうほど美しい島」仙酔島は、火山の噴火による溶結凝灰岩で出来た外周約5キロほどの小さな島。無人島であるが、島内にはホテルや国民宿舎・キャンプ施設がある。



市営渡船「平成いろは丸」が20分間隔で運行している。



いろは丸展示館の傍にある「常夜灯」。灯台の役目をしていたものと思われる。



「平成いろは丸」に乗って5分で仙酔島に渡る。



島に渡ると、写真の照明が目に入った。夜間はこれによって遊歩道が照らされる。



仙酔島には、国民宿舎「仙酔島」がある。国民宿舎の前に広がっている美しい砂浜。



仙酔島の海岸線に沿ってつくに整備されている遊歩道。

7. あとがき

福山雅治が演じる NHK 大河ドラマ「龍馬伝」の影響で高知と長崎が坂本龍馬ブームに沸いているが、今回の観光地である下関と鞆の浦でも、坂本龍馬のポスターや龍馬に関する資料の展示が多かった。



仙酔島の山の中にも森林浴を楽しむことができるように遊歩道が整備されている。

坂本龍馬は薩長同盟締結後に下関に棲家「自然堂」を構え、愛妻お龍と共に過ごし、志を共にする同志達と夢を語り明かしている。こうした縁があって、下関市立長府博物館には龍馬に関する資料が保存・展示されているようである。

唐戸エリアには、新時代を共に夢見た高杉晋作と坂本龍馬の友情が二本の石柱で表現された「青春交響の塔」が、維新発祥の地・下関のシンボルとして平成 15 年（2003）に建立されている。

鞆の浦には、いろは丸展示館がある他、日本初の海難審判が行われた円福寺、龍馬が海援隊士を連れて遊びに出かけた遊郭跡などが残されている。最近では、神様仏様龍馬様ではないが、「龍馬観音像」まで建立されているようである。

平成のいろは丸で仙酔島に渡ると、国民宿舎「仙酔島」の 1 階展示室で、『平成いろは丸で行く仙酔島・龍馬といろは丸展』が開催されていた。

どこの観光地に行っても、歴史上の人物の中で人気が最も高い坂本龍馬に何とかあやかって、商売繁盛に結びつけたいという人々の願いがひしひしと伝わってきた。

土佐が生んだ坂本龍馬の偉大さを再認識される旅であった。

2010 年 10 月 24 日記